

今夏(7、8月)の電力需給実績について

2018年9月20日
北陸電力株式会社

当社は、今夏の当社エリアにおける電力需給実績について取りまとめましたので、お知らせいたします。

当社は、志賀原子力発電所の運転停止が継続する厳しい需給状況の中、安定供給の確保に努めてまいりました。

今夏の需給については、天候等の影響によりお客さまの使用量（最大電力）が高い日もありましたが、電気設備の保安に努め、結果として安定した電気をお届けすることができました。

今後も、当社としては電気設備の保守点検を確実に実施する等、引き続き電力の安定供給に努めてまいります。

お客さまにおかれましては、引き続き電気の効率的なご使用にご協力をお願い申し上げます。

以 上

別紙：今夏の電力需給実績の概要

今夏の電力需給実績の概要

2018年9月20日
北陸電力株式会社

こたえていく。かなえていく。北陸電力

1. 今夏の需給バランス

1

- 今夏(7、8月)の北陸エリアの最大電力は、8月22日(水)14時～15時の521万kW。
- 当初の需給見通しでは猛暑となった場合の最大電力を524万kW、平年並みの気温であった場合の最大電力を500万kWと想定。
- 供給面では、同日の供給力は574万kWと、当初見通しより12万kW上回り、10%の予備率を確保。
- 今夏の北陸エリアにおいて予備率が最小だったのは7月2日(月)の8.5%。
- 志賀原子力発電所が停止している中、厳しい需給状況は継続しているが、今夏については電気設備の大きなトラブルもなく、期間を通して予備率が8%以上となり、安定供給を確保できた。

■今夏の需給バランス

[万kW]

	8月見通し		最大電力発生日 8/22(水)実績	予備率最小日 7/2(月)実績
	猛暑ケース	平温ケース		
供給力	562	562	574	513
最大電力	524	500	521	473
予備力	37	62	53	40
予備率	7.1%	12.4%	10.2%	8.5%

■予備率の実績(7・8月の平日)

	5%未満	5%以上 8%未満
2018	0日	0日
2017	0日	5日
2016	0日	6日

※見通しは平成30年度供給計画値を基に猛暑による需要増を考慮

※供給力については連系線の活用を考慮しない場合

※実績については一部推計値含む

※四捨五入の関係で合計が合わない場合がある

こたえていく。かなえていく。北陸電力

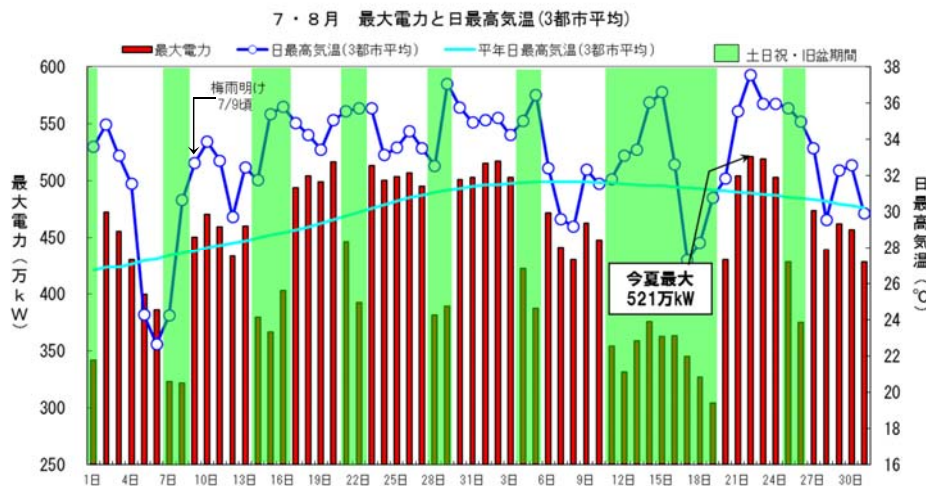
2. 最大電力および最高気温の推移（7月～8月）

2

- 7月、8月とも平均気温が高く、猛暑日(日最高気温35℃以上)、真夏日(同30℃以上)とも平年よりかなり多かった。
- 今夏の最大電力は8月22日に発生(今夏最大521万kW)したが、数日前から比較的気温の低い日が続いたことから、今夏の最大電力は猛暑想定需要を下回った。

＜最大電力(エリア送電端)と気温の推移(3都市平均)＞

＜最大電力[エリア送電端]と気象状況の推移＞



■猛暑日(最高気温35℃以上)

	7月	8月	計
2018	8.0日	10.7日	18.7日
2017	2.7日	2.0日	4.7日
平年	1.2日	2.9日	4.1日

■真夏日(最高気温30℃以上)

	7月	8月	計
2018	27.0日	26.3日	53.3日
2017	22.3日	21.0日	43.3日
平年	13.7日	20.8日	34.5日

■平均気温比較

	7月平均気温	8月平均気温
2018	28.4℃	28.2℃
2017	27.2℃	27.1℃
平年	25.3℃	26.9℃

※猛暑日、真夏日、平均気温は3都市(富山市・金沢市・福井市)平均

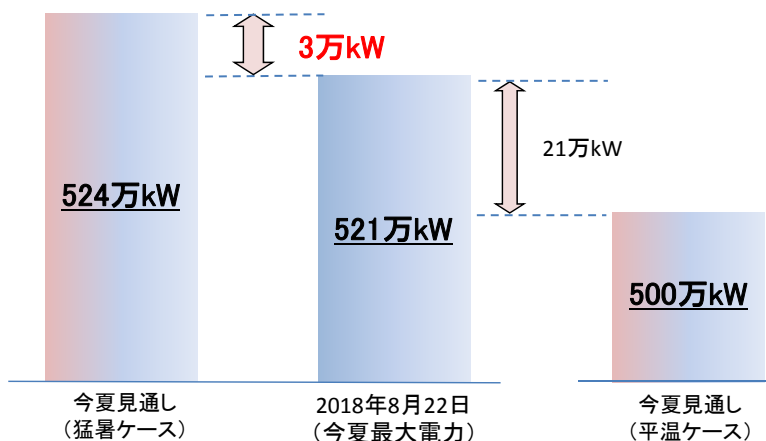
こたえていく。かなえていく。北陸電力

3. 今夏最大電力の見通しと実績との比較

3

- 2010年度並み猛暑を想定した猛暑ケース(524万kW)との差は▲3万kW(気象影響▲8万kW、景気影響等+5万kW)であった。
- 平温ケースとの差は+21万kW(気象影響+16万kW、景気影響等+5万kW)であった。

＜今夏最大電力の見通しと実績との比較＞



■最大電力差異(当初見通し比)の内訳

	猛暑見通しと今夏実績の差	平温見通しと今夏実績の差
気象影響	▲8万kW程度	+16万kW程度
景気影響等*	+5万kW程度	+5万kW程度

※景気影響等は最大電力上位3日平均で分析した数値

以上

こたえていく。かなえていく。北陸電力